



みんなのつばき

もっと台湾が好きになる

第13回

皆さんは外国人と話したことありますか？もしあるとすれば、それは何歳の頃でしょうか？海外旅行や仕事関係で、初めて違う国の人と話ることが多いと思いますが、私は昨年から仙北市内の各中学校・高校で台湾の学校と遠隔会議ソフトを通じてオンライン交流を企画しました。

昨年11月に角館中学校が先陣を切り、今年2月に西明寺中学校、大曲支援学校せんぼく校が交流しました。3月には角館高校、生保内中学校、桧木内中学校、神代中学校が交流する予定です。

台湾と交流する前に、まずは台湾のイメージをつかめるように、生徒に簡単な台湾文化講座を行いました。例えば、台湾学校の時間割や部活、塾、朝ごはん事情など身近に感じる情報を紹介しました。本番交流は両校生徒の自己紹介から始まり、ゲームやクイズを通じて親睦を深めます。さらに、日本と台湾の地元のお菓子を紹介し合い、異国の食べ物を楽しむと同時に自国文化についても学びます。

この交流プログラムの目的は、世界中に違う言語を使い、違う生活を過ごしている人がいることを生徒に知ってもらうことです。当たり前のようなことですが、実際に肌で感じるということがとても大事で、貴重な経験になります。今回の交流を通じて生徒の皆さんは様々なことを感じたと思います。例えば、「楽しかった」、「英語をもっと勉強したい」、「海外に行ってみたい」、「やっぱり地元の秋田が一番好き」など。

他人とふれ合うことで、自分のことを見つめ直す機会にもなります。「あ、そういう考え方もあるんだ」と気づき、選択肢を一個でも増やせば、自分が生きやすい世界に近づきます。そして異なる価値観を理解できなくても、それを尊重できる心を持ち、歩み寄れる社会になればいいと思っています。今回の交流が生徒に少しでも刺激を与え、何かしらのきっかけになれば目標は達成したと思います。

季節の変わり目ですので、皆さんお体に気をつけてお過ごしください。

春の息吹を肌で感じられる今日この頃、台湾出身の私からしたら、季節の移り変わりを五感で楽しむことがとても贅沢なことです。しかし、除雪で上腕二頭筋が育ちつつありますので、そろそろ降らなくてもいいのではないかと思います。

自己紹介が申し遅れましたが、台湾出身の仙北市国際交流員の黄敏(ファンミン)です。

交流の様子

11/24 (Wed) 角館中学校×台中市立惠文高校中部



西明寺中学校×台中市立立人中学校

2/21 (Mon)



2/22 (Tue) 大曲支援学校せんぼく校 × 台北市立文山特殊教育学校



なんもです

中山里沙



繊細で深い青の、凍っていた田沢湖。「なんもです」と言える人間に、私はなりた。

「なんもです」という言葉が好きです。皆さんがいつも使っている、あの言葉です。秋田に来てから、土地ならではの言葉をたくさん教えていただきましたが、「なんもです」は私の中で特別で、いつ、誰に言われてもあたたかく輝いて聞こえます。こんな風に感じる言葉はほかに知りません。

初めて聞いたのは、移住前に旅行で仙北市を訪れたときでした。お礼を言ったら「なんも」と返されました。「なんも？」「何も出ないよ」とか、「何も気にしないで〜」みたいなこと？、とりあえずほかの言葉が続くんだろうなと思い、次の言葉を待ちました。しかし、何も続かない。「ありがと」「なんも」で終わり。私にとっては全然慣れない、不思議な感覚です。こちらの人たちは「どういたしまして」という意味で使っているのだろうか、と理解しましたが、その後、「なんもだ」「なんもなんも」「なんもです」と聞き続けるうちに、「こう返されるとなんだか心があたたかく、清々しい気持ちになっているぞ、というところに気づきました。」

「なんも」には、自分が他者に対してあげたことに対して、「こんな当然だよ」、「なんにも負い目を感じる必要ないよ」というような、懐の広さや心のあたたかさ、善意そのもののような尊さを感じます。もし、あまりよい印象を持っていない相手でも、「なんもだ」とひとこと返されたら、「え、いい人じゃないか!」と思わされてしまう気すらします。すごい言葉です。

お礼に対する返し方は、「どういたしまして」、「とんでもないです」、「お気になさらず」などが標準語では一般的です。「なんもです」に比べたら、堅苦しく、心の距離を感じます。そして長いです。家族や親しい友人に対しても、「どういたしまして」を使うと8文字です。「なんも」はたった3文字。さらに、初めから同じ目線に立ってくれているようなやさしさを感じます。

冒頭でも書きましたが、不思議なのは、「なんも」を言うのが誰でもあっても「いいなあ」と思うことです。それはなぜなのか。考えるに、人間は、本心で思っていない言葉は素直に言えないものです。そして、秋田の人は、実に自然に「なんも」と言います。形式的に言っている感